

## 2019年度予算の概要

二松学舎創立140周年(平成29年10月)を機に策定した新長期ビジョンN'2030 Planにより、「いままでの140年、これからの140年」をテーマに、建学の精神に基づき「豊かな人間力を有し、自ら考え行動する人材、人々の長い歴史と英知を擁する古典から未来を学び、的確な国語力を備えた真の国際人の養成」を基本とし、複雑化する社会のニーズに応える教育体制の構築をめざす。

大学は、平成29年4月の文学部都市文化デザイン学科の設置に続き、平成30年4月に国際政治経済学部国際経営学科を設置し、大学部門は2学部5学科となった。「国際経営学科」では、情報・外国語の優れた運用能力を基礎力として、課題を見極め解決する力、国際社会を生き抜く実践的な「創造的思考力」と社会の変化に対応して自らのキャリアを主体的に切り開く力を身に付けた人材を養成する。附属高校は、「心を育て 学力を伸ばす」というコンセプトの下、人格教育と社会で十分役立つような学力養成を目指して教育活動を行う。愛校心の育成を基に、地域・社会との連携、国際化への取り組み、教育のICT化と学力の向上および難関大学への進学実績向上に取り組む。柏中学校では、グローバルコース設置し、ネイティブの英語授業、国語、韓国語の選択講座を設定し、さらに内外の多様な語学研修への参加機会を提供する。柏高校では従来の進学コースと特選コースに加えて、スーパー特選コースとして難関大学を目指すクラスの設置により生徒の学習目標・意欲の向上と自己統率力の育成を行う。当年度は附属柏高校創立70周年を迎えにあたり、来年度10周年の附属柏中学校と合わせて、記念式典、講演会ほか各種周年事業を実施する。

キャンパス整備については大学では、九段キャンパス既存校舎の改修整備、資料展示室及びラーニング・コモンズ入館カウンターを設置、九段1号館の教室ICT機器の更新、柏1号館AV設備機器の更新、柏校舎空調設備およびトイレ改修整備、柏1号館屋内消火栓ポンプ交換等を、附属高等学校では、調理室設備の更新、学籍システムのリプレイス、電気設備の一部改修を、柏中学・高等学校では、教員成績処理用パソコンの更新、西校舎エントランスホール及び図書室改修工事、図書室備品の入替え、美術室の机・椅子の入替えなどを計画している。

当年度収支については、収入面では在籍者数増加により学納金収入が増加する見込みである。一方、支出面ではキャンパス整備の進捗に伴い、私学事業団への借入金返済のほか校舎・グラウンドの維持管理や情報システム機器の運用・保守に係る経費など、長期に亘り多額の支出が続くことが予想される。2019年度特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力的に実施する。既存事業のスクラップ・アンド・ビルドを推進するとともに、アクションプランに織り込まれていない投資は極力抑え、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを2019年度の予算編成方針とした。

### 2019年度の収支状況

#### 1. 事業活動収支予算書について(別表1)

##### (1) 教育活動収支について

## 【収入】

- ① 収入の柱である学生生徒等納付金は、約 45 億円となる見込みである。
- ② 手数料は、入学検定料を主として 1 億 3 千 7 百万円を見込んでいる。
- ③ 大学及び両附属高等学校並びに柏中学校の経常費等補助金は 9 億 7 千 3 百万円を見込んでいる。
- ④ 雑収入は、退職金団体からの交付金 1 億 6 千 4 百万円と併せて 2 億 1 千 1 百万円を見込んでいる。

## 【支出】

- ① 人件費は、大学、附属高校、柏中学校・高等学校の教職員給与および退職給与引当金繰入額として 29 億 9 千 5 百万円を見込んでいる。
- ② 教育研究経費は、施設設備の維持管理、ICT 環境の充実、情報センター業務および図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、19 億 7 千 7 百万円を計上している。
- ③ 管理経費は、教育研究経費と同様に施設設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などにより、5 億 4 千 1 百万円を計上している。

これにより、教育活動による収支差額は 4 億 8 百万円(収入超過)となる見込みである。

### (2) 教育活動外収支、経常収支について

資金運用による受取利息配当金収入が 2 億 1 千 5 百万円、借入金利息の支払額が 1 千 5 百万円となり、経常収支における差額は 6 億 1 千 7 百万円(収入超過)となる見込み。

### (3) 特別収支について

有価証券の売却差額として 3 千万円を、その他の特別収入として主に施設設備に対する助成金を 9 百万円見込んでいる。また、施設設備(備品、図書を含む)の除却額として固定資産処分差額を 1 千 4 百万円見込んでおり、特別収支差額は 2 千 6 百万円を計上している。

これらにより、基本金組入前当年度収支差額は 6 億 4 千 2 百万円を見込んでいる。当年度の基本金組入額は、施設・設備の整備及び教具・器具・備品の取得及び借入金返済などにより 5 億 5 千 8 百万円を計上している。この結果、当年度収支差額は 8 千 4 百万円の収入超過となる見込みである。

## 2. 資金収支予算書について(別表2)

収入の部は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は 74 億 3 千 7 百万円となり、前年度繰越支払資金 30 億 3 千万円と合わせて収入額合計は 104 億 6 千 7 百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等により、当年度支出額は 70 億 2 千 4 百万円となり、翌年度繰越支払資金は 34 億 4 千 3 百万円となる見込みである。

別表1 事業活動収支予算書

(単位:百万円)

		2019(平成31) 年度	平成30年度	
教育活動収入	科目	金額	金額	
	学生生徒等納付金	4,500	4,392	
	手数料	137	137	
	寄付金	96	99	
	経常費等補助金	973	985	
	付随事業収入	10	10	
	雑収入	211	300	
	教育活動収入計	5,927	5,923	
	事業活動支出	科目	金額	金額
		人件費	2,995	3,152
		教育研究経費	1,977	2,099
		管理経費	541	535
		徴収不能額等	7	7
		教育活動支出計	5,520	5,795
教育活動収支差額		408	129	
教育活動外収入	科目	金額	金額	
	受取利息・配当金	215	231	
	その他の教育活動外収入	9	10	
	教育活動外収入計	224	240	
	事業活動外支出	科目	金額	金額
		借入金等利息	15	19
		その他の教育活動外支出	-	-
教育活動外支出計	15	19		
教育活動外収支差額		209	221	
経常収支差額		617	350	
特別収支	科目	金額	金額	
	資産売却差額	30	32	
	その他の特別収入	9	38	
	特別収入計	39	70	
	事業活動支出	科目	金額	金額
		資産処分差額	14	6
		その他の特別支出	-	-
特別支出計	14	6		
特別収支差額		26	64	
基本金組入前当年度収支差額		642	415	
基本金組入額合計		△ 558	△ 551	
当年度収支差額		84	△ 136	
前年度繰越収支差額		△ 3,099	△ 2,963	
翌年度繰越収支差額		△ 3,015	△ 3,099	
(参考)				
事業活動収入計		6,191	6,234	
事業活動支出計		5,548	5,819	

別表2 資金収支予算書

(単位:百万円)

科目	2019(平成31) 年度	平成30年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,500	4,392
手数料収入	137	137
寄付金収入	96	99
補助金収入	979	1,007
資産売却収入	1,000	1,000
付随事業収入	19	20
受取利息・配当金収入	215	231
雑収入	211	300
借入金等収入	2	1
前受金収入	897	893
その他の収入	475	556
資金収入調整勘定	△ 1,094	△ 1,231
当年度資金収入合計	7,437	7,405
前年度繰越支払資金	3,030	2,700
収入の部合計	10,467	10,104
支出の部		
人件費支出	3,043	3,176
教育研究経費支出	1,366	1,440
管理経費支出	516	506
借入金等利息支出	15	19
借入金等返済支出	361	306
施設関係支出	94	156
設備関係支出	155	290
資産運用支出	1,176	1,356
その他の支出	463	370
資金支出調整勘定	△ 165	△ 543
当年度資金支出合計	7,024	7,074
翌年度繰越支払資金	3,443	3,030
支出の部合計	10,467	10,104

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。